

千里第二小学校ものがたり(一)

編集部

千里山会の母体である千里第二小学校は、来年初立八十周年を迎えます。千里山開発物語が昨年の第十号で完結したこともあり、柿崎さんより編集部を引き継ぎました私(萩原)がその後釜として、このタイトルで続けたいと思っております。

夫々の皆さんが過ぎされた千二小時代のこと、その当時の先生方のこと、あるいはその先生方の近況報告等を中心にしたと思っております。

これらのことは、過去の第一号から第十号まで毎回どなたかが既に載せておられ、相当数になります。その意味からは何ら目新しい企画ではありません。しかし、タイトルを設けることにより、改めて新たな一面や知られざる様々を皆さまにご披露願いたいと期待するものです。

タイトルを千里第二小学校と付けておりますが、一中はその校域、生徒が千二小とほぼ同じです。内容が一中であっても多くの方に通じるはず。その意味では千中を含め、中学時代の

のことも大いに結構です。

この企画は私が編集部を引き受けた時に、まず「何か数回続けられるシリーズものはないか？」を仲間に問いましたところ、同級の林裕三君より「先生シリーズ」の提案がありました。そこで早速、我が恩師 東谷睦子先生に相談しました。

先生のご主人は東谷勝司先生で、当会誌第八号に「雪・月・星・花・・・ものがたり」を掲載されております。その両先生から参考に使いなさいと貸していただいたのが、千二小の創立三十周年・四十周年・五十周年記念誌です。先ほど書きましたように来年在八十周年ですから、これら記念誌は三十・五十年前のものということになります。三十周年記念誌(昭和三十四年十一月)には当時まだ学生だった黒川高秀様が卒業生としてご寄稿されておりますが、同時に昭和三十年度PTA会長を勤められたお父様である黒川幸夫様も「回想録」を寄せられております。記念誌の思い出や回想録が書かれた当時が、今となっては遠い懐かしい過去ということになります。

この三十周年記念誌については、当会誌第三号

に〔回想録〕三回生からのメッセージ〔六角明子〕として掲載されています。

今回は、この記念誌から「千二小のあゆみ」と歴代の校長先生のご紹介やお写真を掲載させていただくと共に、多くの方々からご寄稿いただいたものの中から、丁度、戦時中の千二小での生活を書いていただいた「戦時中の千里第二小学校」小木曾 文子」と「小川 東吾先生」林 裕三」を「千里第二小学校ものがたり」として構成させていただきました。

東谷勝司先生については、会誌第八号に紹介させていただいておりますので、ここでは東谷睦子先生について少し触れさせていただきます。先生は千二小 九回生でもあり、母校の教壇に立たれたことになりました。私自身、四年生から六年生までの三年間（昭和二九年〜三一年）、担任の先生として教えを受けたわけですが、確か当時の千二小では、女の先生として初めて高学年を担当されたと聞いております。両先生はご健在で、今も千里山西にお住まいです。

千二小のあゆみ

明治 八年

三島地区第五小学校第四番小学校という名で、佐井寺村の山田寺門前に「佐井寺小学校」設立。

明治 二二年

男58人 女24人 先生2人
佐井寺、片山の村立小学校が合併して「佐山小学校」となる。四一年に義務教育が六年にのび（それまでは四年）佐井寺小学校が狭くなったので、片山の「原」に校舎ができ、佐井寺の子どもはそこまで通った。

大正 十年

北大阪電鉄が十三から千里山まで電車線を開通。その年の春大阪住宅経営会社が千里山終点の西側の山、一四万坪を住宅地とする。十二年夏に最初の十戸入居。

大正 十一年

佐山小学校は千里小学校と名

大正十二年四月

を交える。
関西大学の教室を借り、千里山住宅の子どもが通う。

昭和十六年頃

大正十四年四月

関西大学から千里山会館や、住宅の空家に移る。

昭和二十年

大正十五年四月

佐井寺と千里山住宅の中間に木造一棟の校舎が完成し、四学級で授業を開始。
(千里小学校分校)

昭和二二年

昭和 二年

佐井寺の全児童、この校舎へ移る。

昭和二三年

昭和 四年四月

「千里第二小学校」として独立。十一月に木造北側校舎と講堂が完成。ここに千二小創立

昭和二四年

昭和 五年三月

二十日第一回卒業式。卒業生33名

昭和 八年

陸上競技が盛んにおこなわれ、十三年ごろは「黄金時代」。三島地区大会はじめ各協議大会でいつも優勝していた。

昭和十二年

千二校だけで学校給食が行わ

れた。（戦争になって中止）

太平洋戦争始まる。戦争が激しくなり、昭和十九年頃になると運動場はほとんどいも畑になる。

八月十五日敗戦。講堂は海軍、運動場側の教室には陸軍の兵器が入っていた。

子どもが増えたのに、敗戦の痛手で校舎は増えず、二四年頃まで1クラス70人近くのすし詰め教室や、二部授業が続けられた。

P T A が発足。

木造校舎をつつかえ棒で支える。秋にモルタル校舎4教室完成。創立二十周年を祝い、秋に二日間の文化祭を開く。この年六年生は修学旅行の代わりに、夏、琵琶湖へ日帰りの水泳に行く。

昭和二六年四月

元私立女学校跡(千里山東二町目)に分校を設置し、二、三年生が通う。この年修学旅行が復活したが、配給制のため各自米を持参する。

昭和三十年

その頃1クラス60人、本・分校に分かれ、木造校舎は古くなり、その上講堂に白アリが発生するなど悪い教育環境条件が重なった。また、大規模な公園アパート建設の計画があり、校舎増築、運動場拡張の大運動を起すため、PTAを中心に、校区市民も参加し「千二校増改築促進会」が結成された。山崎薫会長を中心に市、府、文部省に強力な交渉が続く。

昭和三二年二月

八月

鉄筋コンクリート造講堂完成。
鉄筋コンクリート造三階建校舎第一期(今の校舎東側です)15教室完成。

昭和三三年 六月

新運動場完成。

十五日、創立三十周年記念・校歌制定。以降この日を創立

祝賀記念日とする。

昭和三六年 七月

プール完成。

昭和三九年 七月

鉄筋コンクリート造校舎増築(第二期、今の校舎西側)分校廃止。久しぶりに前項の児童が現在の校舎に通う。

九月

昭和四一年

PTAの寄贈で、六年各学級に初めてテレビを設置。

昭和四三年

四二年度に千二校児童数は1,851人に達し、過大化解消のため、四三年四月、千里第三小学校を新設、阪急電車線を境に、西側の地区の児童がわかれる。

昭和四四年 六月

言語障害児を対象とした言語治療教室を設置する。

昭和四七年

(五三年に北千里小へ移転)新体育館建設を要求する運

歴代の学校長

初代	北野 伊勢一	S四・四〜S五・三
二代	小寺 治雄	S五・三〜S十六・三
三代	西田 慶太郎	S十六・三〜S十九・九
四代	植田 義一	S十九・九〜S二一・十一
五代	木岡 翁吉	S二一・二〜S二七・十
六代	有川 清夫	S二七・十〜S三四・七
七代	出水 久太郎	S三四・九〜S四四・四
八代	福井 勇	S四四・四〜S四四・四
九代	宿久 克己	S四四・四〜S五三・三
十代	西田 慶二	S五三・三〜S五三・四
十一代	栗田 稔	S五三・四

昭和五三年 四月
昭和五四年

十二月

動をPTA、児童会がおこす。新館東西二棟の校舎完成。千二幼稚園新設、新体育館完成まで千二小運動場にプレハブ園舎で出発。
新体育館完成。
今年児童数1,840名、過大化解消、新設校早期開校を望んで、PTAは九月に署名運動、6,730名の署名を得て市に陳情。

(以上、創立五十周年記念誌「光あふれる丘の上」より転載)

(創立五十周年記念誌より転載 次ページの学校長の写真は創立四十周年記念誌から転載。このため、八代 福井校長までしかありません。会誌第八号に二〇回生 久保 利也様が手書きで十八代 香坂校長までの歴代校長の履歴を載せておられます。ダブッテ掲載したことになりましたが、写真との比較のため敢えて掲載しました。)



初代 北野伊勢一先生
(昭4.4~5.3)



2代故 小寺 治雄先生
(昭5.3~16.3)



3代 西田慶太郎先生
(昭16.3~19.9)



4代故 植田 義一先生
(昭19.9~21.11)



5代 木岡 森吉先生
(昭22.2~27.10)



6代 有川 清夫先生
(昭27.10~34.7)



7代 出水久太郎
(昭34.8~40.3)



8代 福井 勇
(昭40.4~44.3)